ロシア語版の編集者より

（はしがき②）

長年にわたって保存されていた S・G・フォスディックの膨大な日記から、これらの記録を選んだというコンセプトは、本書のタイトルにも正確に反映されています。私たちは細心の注意を払って、著者とN・KとE・I・レーリヒとの直接の交流に関連するすべての記録を、それらの資料から収集しようと試みました。\*1

この貴重な資料には、レーリヒ家の日常生活の詳細、アメリカでの目覚ましい文化的・教育的活動、人々との関わり方、N・K・レーリヒの組織スタイルと金融問題へのアプローチ、E・I・レーリヒの精神的（スピリチュアル）な経験とアグニヨガの教えの発展の内なるダイナミックさなどが含まれています。日記の中で特別な位置を占めるのは、シナイダ・グリゴリエフナと長老のレーリヒとの間で交わされた深い意味のある会話であり、これらの傑出した人々の世界観を最も鮮明に、そして直接的に伝えています。

S・フォスディックはロシア語で日記を書いていましたが、ソビエト・ロシアやモンゴルでの記録は英語であり（理解できる理由で）、ロシア語に翻訳されています。また、本文中の多数の英単語や表現もロシア語に相当するものを掲載しています。名前や専門用語の省略形は可能な限り略さず記され、編集上の注意事項と同様に角括弧で括られています。個人名は通常ロシア語訳で表示されますが、多くのアメリカの組織名はアメリカ語訳で表示されます。

N・K・とE・I・レーリヒの弟子の内輪のメンバーは、しばしば彼らの秘教的な名前で日記の中で紹介されています。

◇アビラク…モーリス・モイゼビッチ・リヒト・マン

◇ログバン … ルイス・ホルヒ

◇ルーモウ … スヴェトスラフ・ニコラエヴィチ・ロエリッチ

◇モドラ … フランシス・グラント

◇ナル … タチアナ・グレベンシコフ \*2

◇オヤナ …エスター（エンタ）リヒトマン \*3

◇ポルマ … ネッティ・ホルチ

◇ラドナ … シナイダ・グリゴリエフナ・フォスディック（リヒトマン ）

◇タルハン・グルギー・ドミトリーヴィチ・グレベンシコフ

◇ウドラヤ … ユーリー・ニコラエヴィチ・レーリヒ

◇ウルスヴァティ …エレナ・イワノヴナ・レーリヒ

◇フヤマ… ニコライ・コンスタンチノヴィチ・レーリヒ

付録には、レーリヒ家のロンドンでの最初の秘教実験を記述したV・A・シバエフの簡単なメモとその間に受け取った資料、ロシアの将来の予測を含むシャンバラの大師たちの声明の断片が含まれています（それらのテキストは、シーナ・フォスディックの日記の中の記録に従っており、E・I・レーリヒのメモと照合されています）。それと彼女の人生の後期に記録されたS.G.フォスディックの簡潔で断片的な回想文からの抜粋、およびN・KとE・I・レーリヒの神智学協会との接触に関連した資料の抜粋などです。

本書の挿絵は、ニューヨークのニコライ・レーリヒ美術館のアーカイブからの原稿などの写真や複製、アメリカのレーリヒの団体が発行したプログラム、冊子、書籍、パンフレットなどからの抜粋などが含まれています。

＊＊＊

読者への注

\*1 以下の日記には、ニコライ・レーリヒとエレナ・レーリヒの名前がロシア名のイニシャルで書かれています。NKがニコライ・レーリヒ、EIがエレナ・レーリヒというようにです。

\*2 タチアナ・グレベンシコフ（秘教名「ナル」）：G・D・グレベンシコフの妻。

\*3 エスター・リヒトマン（家庭の愛称：イェンタ）（秘教名：オヤナ）。ジャーナリスト。ニューヨークのレーリヒ門下の秘教サークルのメンバーであり、エレナ・レーリヒの信頼する側近であり、また、エレナ・レーリヒの同僚であり、使者でもあった。彼女は、ニコライ・レーリヒの生涯と芸術についての最高の文学的エッセイの著者（ペンネーム「ジャン・デュベルノワ」）である。後に彼女はエレナ・レーリヒの信頼を自分の個人的な目的のために利用しようとしたが、この試みが発覚したときには、スキャンダルを引き起こし、仲間（サークル）の分裂を引き起こし、運動全体に深刻な被害をもたらしたのです。

（星野 未来 訳）